



築理会 会報

2020 Spring vol.65

東京理科大学工学部建築学科校友会



東京理科大学 葛飾キャンパス理大モール 撮影：大岩 昭之

新会員（新卒業生）の皆様 築理会へようこそ

築理会の活動に参加して、
多くの卒業生と交流を楽しみましょう。

2020年度 築理会総会・講演会・懇親会を 開催します。

講演：「つながる建築」 広谷 純弘氏
(株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ・1980年卒)

ぜひご参加ください。詳細は8Pをご覧ください

CONTENTS

新会員（新卒業生）へのメッセージ

海外へ飛躍しよう	3P～5P
視野を広げよう	6P、7P
学生&OBOG交流会・懇親会 先輩は語る2019	

築理会活動報告	2P
インフォメーション	8P

2020年度築理会総会・講演会・懇親会案内
 築理会活動スケジュール
 ホームカミングデー、築理会新年会報告
 宇野教授退任
 会費納入のお願い

築理会の最新情報を、HP、ブログ、メルマガで配信しています。

築理会活動報告

2019年5月に就任した佐野会長の下、新しい委員会体制で築理会活動が始まりました。活動テーマを推進する各委員会の成果とこれからのミッションを紹介します。

- 活動テーマ**
- テーマ1 会員相互の交流を活発化する
 - テーマ2 会員の活動を支援し、「理科大建築」のプレゼンスを拡大する
 - テーマ3 東京理科大学工学部建築学科と連携して教育貢献する



築理会・野田建築会合同新年会

活動テーマを推進するための委員会体制



学生 & OBOG 交流会・懇親会
先輩は語る 2019

企画総務委員会

乙丸勝範委員長

諸行事の運営管理をしています。ホームカミングデーなどを通じ、理窓会や野田建築会との連携も進みました。「りぼん」制作グループ同窓会スタートなどの新たな試みにも積極的に対応します。

メルマガ

築理会 メルマガジン [第1号]
2019年11月30日 配信

本メルマガジンは東京理科大学工学部建築学科校友会である会員の皆さまに配信しております。

2020新年会のお知らせ
2020年1月16日(木)18:00より
神楽坂(旧)協会の様子を撮影
後援者様へお礼の言葉を申し上げます。

●目次●
1.ホームカミングデー開催報告
2.築理会2019年度委員会と運営メンバー

建築学科への協力委員会

増村清人委員長

建築学科と共催で、学生OBOG交流会を開催しました。今年は、社会人コース設立などでも学科に協力しましたが、「りぼん」発刊支援継続、学生への表彰制度の充実などで学科と後輩を応援します。

会員ネットワーク委員会

三輪富成委員長

念願のメルマガをスタートしました。これからも名簿整備、地方のネットワーク充実などにより、世代を越えたつながりがますます広がってゆくよう尽力します。

築理会

情報・広報委員会

近藤剛啓委員長

会報の発行・充実だけでなく、WEB・メルマガにも共有できるコンテンツづくりに取り組んでいます。「理科大建築」のすぐれた人材発掘や、キラリと光る情報掘り起こしを進めます。



活性化委員会

稲垣雅子委員長

各委員会の活動を力強く支援しています。活動への参加者も広がってきています。これからも特に若い築理会会員の発表や参加の機会創出、活動支援など、いままでにない取り組みをします。

委員会どうし連携して実りある活動が続いてきました。会員の皆様には変化している築理会に目を向けていただき、いろいろな行事に参加ください。あるいは皆様の活動の情報をお寄せください。ご一緒に「理科大建築」をにぎやかにし、バリューアップしてゆきましょう。

総合資学院は「**日本一**」の合格実績!

令和元年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国 ストレート合格者占有率 **64.6%**

全国ストレート合格者1,696名中 / 当学院当年度受講生1,095名 (令和2年2月5日現在)

東京理科大学 当学院受講率 **63.2%**

令和元年度 卒業生合格者95名中、当学院当年度受講生60名 (令和2年2月5日現在)

●令和元年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,571名中、当学院当年度受講生2,138名 全国合格者占有率59.9%

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会[No.1表示に関する実態調査報告書]に基づき掲載しております。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和元年度1級建築士学科試験に合格し、令和元年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

学院長: 岸 隆司

総合資格学院

全国約90拠点

北千住校 TEL.03-5284-3911 足立区千住3-98 千住ミドリビル南階 4F

総合資格 検索 Facebook (総合資格 拓)で検索!

スクールサイト www.shikaku.co.jp

コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

法定講習 実施中 一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習

開講 | 1級・2級 建築士/建築施工管理/土木施工管理/工務施工管理/構造・設備設計1級
講座 | 建築士/宅建士/インテリアコーディネーター/建築設備士/賃貸不動産経営管理士

新会員(新卒業生)へのメッセージ

海外へ飛躍しよう

建築の世界でも海外と関わる、海外で働くチャンスは増えている。

外国で働くメリット、魅力はなんだろう。働き甲斐やビジネスチャンスはあるのだろうか。異文化、語学、仕事の仕方、ワークライフバランスをどうしているのだろうか。どんな心持ちでチャレンジすればよいのだろうか。

これらのことに前向きに取り組みキャリアアップに繋げているOBOGに、新会員へのアドバイスをお聞きしました。

3都市を経験して

大橋 麻未

(Kardorff Ingenieure
Lichtplanung GmbH・2015年卒)

私は現在、ベルリンの照明デザイン事務所で働いています。3チーム編成の20人程度規模の事務所で、各チームごとに約30～40プロジェクトを担当しています。国内プロジェクトが主ですが、その他ヨーロッパや中東などの国際プロジェクトも多数手がけており、スタッフも多国籍な事務所です。これまでの経緯を説明すると、学部4年生の時に海外大学院への進学を決め、卒業後シンガポールとベルリンの照明デザイン事務所でインターンを経験した後、ドイツの建築照明の大学院に進学しました。2年目はニューヨークでインターンをしながらか論文を修了し、卒業後現在の事務所に就職しました。担当プロジェクトは多岐に渡りますが、新築オフィス、築百年以上の建築の外観照明、内装リノベーションの自然史博物館が現在稼働中のメインプロジェクトで、日本ではなかなか経験できない建築の照明に携わるこ



とができています。

海外経験4年程度の私ですが、海外で働くために必要だと感じることは、まず何よりも先に言語能力とコミュニケーション能力でしょう。異なる文化圏の人間と働くというのは日本人同士よりもあらゆることを言葉で説明し、互いに理解する必要があります。言わなくても通じるなんて都合のいいことはまず起こりえませんし、発言数が多いことが必ずしも正義ではありません。いかに自分の主張を合理的なディスカッションをして通せるかが勝負です。経験という点で上司を尊敬はしますが、ポジションに関係なく対等に意見を言うことが重要です、それが求められます。またマネジメント力も欠かせない能力のひとつでしょう。例えば残業せずに自分のタスクを時間内に終わらせる能力です。自分の能力を正確に把握することはとても重要で、できるかできないか、どれぐらいの時間が掛かるのか、ということをして即座に判断できないといけません。プロジェクトによっては稼働時間毎にデザイン料が発生しますし、そもそも時間さえ掛ければ良いものが出来るというのも正しいとは思いません。毎日6時に退社する生活を送っていますが、勿論これは個人の努力だけでなく事務所、また業界全体としての仕組みも多分に影響する事ではあるでしょう。しかし、ただ単に短い労働時間で済んでいるのではなく、そこには個人に対するシビアな能力主義の世界といかに効率よく回しているのかという仕組みのアップデートを厭わない姿勢によって実現できているということは強調しておきたいです。と、何だか厳しそうに聞こえるかもしれませんが、海外に飛び出すのは多少の勢いも必要です。ある程度計画もしつつ、失敗を恐れずノリと勢いに任せてやってみるしかないのかなとも思います。

Kardorff Ingenieure Lichtplanung GmbH
<http://www.kardorff.de/en>

特許取得 第5702410号
NETIS番号:K1-150122-A
ECS-TP工法(鉄と柱の融合工法)
東京都建設局 新技術登録 1801006

ECS-TP

鉄骨構造物に革命を。
杭と柱の一体化。

株式会社 三誠
SANSEI INC.
Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 茨城出張所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

エア-断震住宅

株式会社 三誠 AIR断震システム
<http://www.airdanshin.jp/>

究極の地震対策住宅 国土交通大臣認定取得 国住指第2036号

①通常時
地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時
地震センサーが一層以上の地震波を検出すると即時にエアーダンパーから空気が送り込まれて家を浮かし、揺れを断ちます。

大地震が来ても大丈夫
原価7割の揺れを1/30に軽減。エア-断震住宅なら、毎日安心して暮らせます。

海外飛躍につなげる育休



提坂 浩之
(ARUP・2013年卒)

私は外資系コンサルで働いています。自分の英語力には不安がありましたが、私が入社した時点で海外勤務を実現していた

先輩たちの影響で、私も「エンジニアとしてひと通りの仕事を学んだら、数年後には海外で働きたい」と漠然と考えていました。そんな私が、「結婚・息子の誕生」という人生の分岐点に立った時の話を紹介したいと思います。

このような分岐点に立った時、家族持ちで英語のできない人がこれから海外なんて無茶でしょうと諦めてしまう人が多いかもしれません。しかし、この時の私はむしろチャンスだと思いました。なぜなら、「家庭の時間を作り育児に参加する事」と「英語を学びに一度海外に行く事」という一見相反する目標が、「育休を海外で過ごす」という選択によって実現可能だと気づいたからです。

時短勤務や在宅勤務・テレワークといった制度も活用しやすくなりましたが、私の場合は語学留学という明確なテーマがあったため、長期の「育児休業」を迷わず選択しました。育休は夫婦同時に取得することが可能であり、且つ一定の条件を満たせば、育児休業給付金を両者ともに受け取る事ができます。

育休取得にあたり、障壁はほとんどありませんでした。開始希望日の半年程前に上司に相談すると、私が男性で初めての育休申請者だったことも幸いし、「良いじゃないか。半年あれば引き継ぎは十分可能」と、祝福の言葉とともに快諾してくれました。

育休期間は、日本（4週）→メルボルン（14週）→シドニー（2週）→シンガポール（1週）→日本（3週）という海外滞在を中心に計画しました。3ヶ月程度で履修できる語学学校をメルボルンで予約し、宿はコンドミニアムと民泊を利用。平日は午前中に授業を受け、午後はマーケットで買い物をして夕飯を作り、息子をお風呂に入れて寝かしつける。休日は観光したり、アラップが担当した建物を見学に行ったりして過ごしました。アラップのメルボルンとシドニー支社の日本人スタッフを訪ねてオフィスを見学し、海外支社で働くエンジニアたちを紹介してもらいました。

半年の育休を経て復帰すると、「提坂は英語ができる

ようになったはずだ」と、早速海外クライアントのプロジェクト担当に任命されていました。数ヶ月で叩き込んだ英語では心許ないながらも、どうかこうにか英語でのコミュニケーションと担当プロジェクトに向き合っています。

生後間もない時期に海外を旅し、色々な人にふれあえたことは、息子にとってもよい経験になったと思います。母子ともに健康でいてくれたこと、そして家族と会社の理解に支えられ、有意義な育休を過ごすことができました。

海外赴任を経験して

阿部 信夫
(YKK AP 株式会社・2002年卒)



私は2004年に大学院を卒業後、YKK AP株式会社に入社し、現在はYKK APファサード社（シンガポール）でBIMマネージャーとして勤務しています。

私が就職活動をしていた頃は、就職氷河期と呼ばれていた時期と重なり、建築学科を卒業しても他業種の企業に就職する人がしばしばおりました。そのような環境のなか、両親に大学院まで通わせてもらったのだからと、ぼんやりと設計事務所で働こうかと考えていたのですが、就職活動をしていくなかで、大規模な建設プロジェクトに関わりたい、有名なアーキテクトと仕事をしてみたいと考えるようになり、設計事務所ではなく、メーカーを選択しました。

入社後は、念願が叶い、超高層ビルの外装カーテンウォールを担当する部署に配属になり、東京で7年ほど勤務したあと、2011年からYKK APファサード社へ異動を命ぜられました。当時は海外赴任を想定しておらず、子供が誕生したばかりで、「海外での生活で家族は大丈夫か、英語も得意でない自分で本当に大丈夫か」と正直戸惑いましたが、きっとこの後の自分にとって、海外赴任の経験がプラスになるはずだ、と言い聞かせて赴任をすることにしました。

シンガポールでは、伊東豊雄建築設計事務所の建築設計、竹中工務店の実施設計・施工の超高層物件キャピタグリーンを担当することになりました。担当と言っ

でも、それまでの外装設計者ではなく、YKK APとして初めての超高層物件のBIM担当エンジニアとして、でした。私自身も、会社にとっても初めての取り組みで試行錯誤が続き、社員は11か国もの国籍の人材で構成され、赴任当初は社員と意思疎通をするだけでも本当に苦労をしました。

そのような状況ではありましたが、個々の事象に「どうあるべきか」を想像し、上司や同僚、現地社員の方々に大きなサポートをもらい、時には私と同じように赴任をされた竹中工務店のBIM担当者の方と一緒に頭を抱えながら、何とか竣工BIMデータをお施主様に提出し、建築建設局BCAへのプレゼンテーションをやり遂げることができ、結果としてプロジェクトとして「BCA BIM Award 2015」にて最高位Platinum Awardを受賞することが出来ました。

YKK AP FAÇADE <https://www.ykkapfacade.com/>

これまでにシンガポール、香港、台湾、ベトナムなどで仕事をしました。困難な場面に遭遇することもあります。「設計者は想像力を絶やすな」と、大月敏雄先生に教えられたことをいつも思い出します。

大学を卒業された皆さんは、日本国内においても、これから沢山のひとと仕事をするでしょうし、今後様々な文化、物事の考え方を持つ多様な人種と協働する機会が出てくると思います。海外で働くチャンスがあれば、自身を異なる環境に置く良い機会になるはずですよ。ぜひ積極的にチャレンジしてみてください。

失敗しろ！



熊谷 一清

(California Department of Public Health, Indoor Air Quality Program, Chief Lawrence Berkeley National Laboratory, Indoor Environmental Group, Affiliate Scientist 東京理科大学工学系研究科, 客員教授・1992年卒)

結論を先に書くと「失敗しろ！」

日本で教育を受け日本で生活していると失敗することは悪だということが擦り込まれる。日本社会には失敗を予防するために何層にも及ぶルールが設定され

ている。一見聞こえが良いがこのルールの最大の副作用としてリスクが取れない。世界第二位の経済規模を誇った日本株式会社は既存のものを洗練し世界に排出してきたが、新しい流れを作ることには得意としてこなかったように思える。洗練させることとはある条件の中で完成度を追求することでその条件を出ないためリスクという観点ではある意味小さいと言える。

ここで社会は何に對し対価を払うかを考えてみると、真新しく一番であるものが多くの人間に評価され、極限を極めた既存のものへの需要は大きくない。この仕組みを考えるとなぜ日本が茹でガエルのように少しずつしかし確実に世界の中での存在感を失っているのが容易に想像できる。

それなら真新しく一番であるものにチャレンジし続けられればいいのか。チャレンジすることは誰でも容認できるように思えるが、チャレンジとは未知に挑むことで、そこには必ず日本社会がアレルギーであるリスクが伴う。アメリカの中で日本社会とモットーという点で似ているのは“Failure is Not an Option” (失敗という選択肢は存在しない) を掲げるNASA (米国航空宇宙局) かもしれない。しかしそのNASAでさえ1986年にSpace Shuttle Challenger爆発した際当時の大統領のレーガンは“The future doesn't belong to the fainthearted; it belongs to the brave.”¹⁾ (未来は勇気あるものに属し ((失敗を恐れる)) 臆病者に属さない) メッセージを発している。

ここまで勇気を奮って失敗をし続け前進しろとは書いてみたものの、初めから失敗したい人間など当然ない。しかし失敗しないと前に進めない。ではどのような失敗をすればいいのか？アメリカ人は子供の頃から“no pain, no gain” (痛みが伴わない事に前進はなし) と言われ育てられているが、それに輪を掛け筆者が拠点を置くSilicon Valleyでよく耳にする“fail early, fail often, but always fail forward”²⁾という言葉がヒントになるかもしれない。Silicon Valleyでは失敗することが前提で失敗をする場合大怪我をする前に先につながる失敗をたくさんするのが大切だと言われている。ただ今後リスクアレルギー社会に出る人が多いであろうから「失敗する」ことを目標に社会人生活を送るとちょうどいいのではないかと思う。なので、繰り返しになるが「失敗しろ！」

1) President Ronald W. Reagan (1986), Explosion of the Space Shuttle Challenger, National Aeronautics and Space Administration (NASA), URL: <https://history.nasa.gov/reagan12886.html> (動画: Challenger: President Reagan's Challenger Disaster Speech - 1/28/86, Reagan Foundation, <https://www.youtube.com/watch?v=Qa7icmqgsow>)

2) John C. Maxwell (2007), Failing Forward: Turning Mistakes Into Stepping Stones for Success

視野を広げよう

学生&OBOG交流会・懇親会

先輩は語る2019

この会は、OBOGが学生に向けて自分達のキャリアを話す機会をつくらうということで10年ぐらい前に始まり、毎年、築理会が企画・運営し学生達が手伝う形で続けてきました。学生とOBOGとの交流・懇親がこの会の趣旨です。多くの方のご参加をお願い致します。

今年は、ファシリテータの安達さん（日経BP総合研究所、1986年卒）から3つのキーワード（人口動態、デジタル、エネルギー）で、これからの10年は世の中のいろんなことが相当変わっていくと予想される、という話でスタートし、各パネラーから仕事の話、皆さんへのメッセージを伝えてもらいました。後半は、10年後についての質問に答えてもらいました。

木村 光翔（大和ハウス工業株式会社、2014年卒）

最初はマンションを作る現場監督をしていました。その後、マンション事業部に配属され、昨年からは北海道に転勤して再開発事業に携わっています。

学生時代の仲間には、設計会社に勤めた方や施工系現場管理に勤めた方もいて、就職してから同じ仕事をする機会が増え、飲み会でもついつい仕事の話で盛り上がる、そんなこともありました。また、別の設計会社に就職した友人が、中途採用で同じ会社に転職してきたこともありました。

短い年数ではあるものの、皆、時代の流れとともにやることも考えることも変わり、話す内容も学生時代に遊んでいた話から仕事の話まで楽しくできる仲間と過ごせることが、卒業してからうれしいことです。

入社して何をやればいいのかは最初から答えはなく、その場にある仕事を探し、新天地に行き、そこでどういうことをやるのが興味もって取り組み、知っていることをずっと続けるよりも、知らないことをやっていることが一番楽しい。今、そういうふうになっております。そういった話を学生の仲間と卒業後に話して、刺激を受けながら、今の仕事をしているところです。皆さんも学友を大切に、卒業後も連絡を取って時々飲みに行き、いろいろな話をして欲しいと思います。

川上 明日香（株式会社竹中工務店、2008年卒）

新入社員教育を1年間受けた後、設備設計2年、設備施工2年、見積1年を経験して、2014年から設計部生産物流チームで設計をしています。

1年目は不安と期待と希望に満ちていました。2～3

年目は知識を吸収していく過程、成長していく過程をおもしろいと感じていました。その後2年間は施工者としてプロジェクトを担当、目の前のことに必死の毎日で怒られてばかりでしたが、竣工時にお客様に感謝され、周りからも認められて本当にうれしかったです。見積部ではコストについて学び充実していました。7年目からは一人で担当し、凄く不安に感じると同時に自分が成長できた年でもあったと思います。現在12年目になって業務は後輩と担当しています。人に教えるのは難しいな、少しずつ先や周りが見えるようになってきたかな、また、専門知識が蓄えられてきたかなと思っています。

今後、子供が生まれたとき、仕事を変えることはあっても辞めることはないと思っています。それは、仕事が自分を成長させるし、世界を広げさせてくれる、人と繋がらせてくれる、そういうところが大きいのかなと、今回、振り返って思いました。

就活の時は、ゼネコンの設計はすごく楽しいなと思っていましたが、続けられるのか不安でした。しかし、そんな先のことはわからないので続けられるところまでやってみよう、その先はその時考えればいよいよと思って、一番楽しそうなところを選びました。

多田 直人（株式会社三菱地所設計、2002年卒）

今まで15年間ぐらいで携わったプロジェクトは30程度あり、その内実現したのは15程度です。実現したプロジェクトを並べてみると、入社してから5年ごとぐらいに環境が変化していると感じています。

2004年に入社してから5年間ぐらいは集合住宅、マンションをどうやって売るか付加価値を提案する仕事でした。2008年リーマンショック以降、マンションがなかなか売れない状況になり、「何を作ってください」ではなく「我々の土地をどうしたらいいでしょうか」という設計業務が結構ありました。2013年ぐらいからホテルの設計が増えましたが、それもひと段落し、また、どうしたらいいでしょうかという案件が増えています。

予測では東京都は2025年以降人口が減っていきます。日本全体では既に人口減少傾向です。今までは不足・



左から、熊谷さん、広瀬さん

不便を充足すれば通用しましたが、これからは、何を作り何を提供していくかが非常に大事な時代になります。

そのために必要な力は、自分なりにビジョンを持つこと、そのビジョンと現実との乖離に対して越えなければいけない問題を明確にすること、そして、クライアントであったり、行政であったり、今後海外の人もいっぱい来ますので、共通の目線にたってコミュニケーションを図ることです。

社会に出ると経験不足であることを負い目に感じてしまっていて自分のビジョンをなかなか言えませんが、今、大人たちは未来の消費者である皆さんの意見をすごく欲しがっています。是非、そういったことをコミュニケーションするように心掛けてください。

広瀬 郁（株式会社トーンアンドマター、1997年卒）

建築学科を卒業して、今、独立してから12年ぐらいになります。仕事は、何をつくっていかうか、どんな事業をやろうかというお手伝いをする事です。それなので、うちにはデザイナーはいなくて、基本的には事業計画やいろいろな仕組みをデザインしています。

何故こういうことをやることになったか、それは学生時代に経験したある出来事がきっかけです。

当時は建築家になるつもりばんばんで、デザイン大好きな学生でした。ある再開発に関与する機会があり、住民の方々へヒアリングに行くうちに仲良くなって花見をすることになりました。住んでいる方々はみんな80代、お酒を飲みながら話を聞いている時、僕は壊すのは反対という事を言ったら、「お前に何の権利があるの。今地震があったら私の安全も守れない、大体雨漏りするし、ネズミがいる。」と怒られました。

でも、建ったものを見たときに、何なんだろうと思っちゃったんですよ。建物を見ているのではなくて、住んでいた時の感じとか、実はそこでいろんな人が起業していたのに何も残ってなくて、何だろうこれかと思いました。住民の方に怒られた権利やお金の仕組みを知らないせいだと思いました。

悩みましたが、設計をせずに、お金の勉強とくして、

仕組みをもう少し順序を変えたり、一番大事にすることは何かと整理したりすることをやったらいいなと思ってこんな事をしています。

箱だけつくっていても生き残れないだろうな、仕組みを作ったり、建築業界っていうのを狭く見るのではなくて、広く見据えるとすごく可能性があると思います。ただ、お金の勉強は意識的にしたほうがいいぞ。

熊谷 一清（カリフォルニア州公衆衛生省、1992年卒）

シリコンバレーに引っ越して10年ぐらい、向こうで感じたことを紹介します。

まず、主体性をもってください。自分は何者かを明確にしてください。もし、わからなければ、こういうものに興味がありますでもいいです。そういうものを2~3用意しておくといいと思います。

今1人でできる仕事って少ないので、いかにいい仲間を見つけて、いかにうまくまとめていくかという能力がすごく問われているような気がします。

とにかく失敗しろ。所変われば、異なる視点でものごとが動いている世界があります。

そして一番大事なものは、やっぱり自分であること。組織に所属したとしても、どうすれば自分が幸せかということを中心に考えながら進んでいくことが大事だと思うので、自分を見失ってはいけないなと感じています。

10年後建築がどう変わるか、どんな仕事生まれるか、自分はどうなりたいか。

(熊谷) スマートビルディング、センシング、ビッグデータ領域が建築に入ってくる。彼らはそのスキルは持っているが、問題は我々が持っている。自分の嗅覚で、新しい事に取り組み、提案していくことが求められている。

(広瀬) 2030年の自分をあまり考えたことがない。ただ、このまま続けることはないと思う。それだけは決めている。

(多田) どうやって事業化していけるかをこちら側から提案していくことが必要。観光業をどうやって考えていくのが大事で、都市や建築全体で考えていけば、まだまだ日本も魅力的な場所ではないか。

(川上) 設計手法が変わっていく過渡期にある。施工もロボットが進む。ツールや手法が変わっても、判断力や工作上必要なスキルは変わらない。スペシャリストとして技術を深めていくことが目標。

(木村) 北海道はものすごく変わると思う。また、地方都市も活性化し、いろんな町が大きく変わっていく。自分で何か発案し、何かやってみて、失敗しながら、いろいろ挑戦していく。



左から、多田さん、川上さん、木村さん

2020年度 築理会総会・講演会・懇親会

日 時：2020年5月9日(土)
総 会：14:30～15:00 神楽坂校舎1号館17階講堂
講演会：15:00～16:40 同上
懇親会：17:00～19:00 PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部



講 演「つながる建築」

ひろた ましひろ
広谷 純弘氏

(株式会社アーキヴィジョン広谷
スタジオ・1980年卒)

会 費：総会・講演会は無料、懇親会は4,000円
同封の振込用紙で送金されるか、当日お支払い
ください。

出 欠：下記メールアドレスへご連絡ください。
Chikurikai@gmail.com

皆さまお誘い合わせの上、ふるってご出席ください

ホームカミングデーに初参加

10月27日(日)に神楽坂校舎で開催されたホームカミングデーに、毎年恒例の女子部会「作ってみよう!家のふくわらい」に加え、築理会も初めて参加しました。築理会とりぼんの紹介展示のほか、伊藤裕久教授に「神楽坂のまちを読む…都市史の視点から」と題したご講演をいただき、好評を博しました。



築理会新年会を開催しました

1月16日(木)に理窓会倶楽部にて、野田建築会とともに新年会を開催しました。築理会は1期(1966年卒)から45期(2010年卒)までの44名が出席し、野田建築会14名、りぼんの学生2名を合わせた総勢60名で、和やかな時間を過ごすことができました。



築理会でお会いしましょう

新卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。建築学科を卒業された全ての方が築理会の会員です。築理会は工学部建築学科卒業生の交流の場です。卒業生の皆さまが築理会の活動を通して交流できるよう、例年以下のようなイベントがあります。ご参加をお待ちしています。

5月：築理会総会・講演会・懇親会

9月：会報秋号発行(会費納入会員に発送)

10月：ホームカミングデー(理窓会への協力)

11月：学生&OBOG交流会・懇親会

1月：築理会・野田建築会合同新年会

2月：築理会賞審査会(3月に表彰)

3月：会報春号発行(全会員に発送)

そのほか、在校生支援として、りぼん(理本)出版への支援や、3年に1度の会員名簿発行、終身会員中心のゴルフコンペ開催等の活動をしています。詳しくは、ホームページ、メルマガでご確認ください。

築理会HP

<http://www.chikurikai.org/>

メルマガの購読はHPのお問い合わせページからお申し込みいただけます。



宇野教授退任

宇野求教授は定年を迎え、2020年春に退任されます。2007年に理科大に赴任されてから13年もの間、学生の指導にあたってこられました。永年のご功勞に敬意を表します。今後も囑託教授として指導にあたられる予定です。

会費納入のお願い

築理会は皆さまの会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費の納入をお願いします。会費は3,500円/年です。同封の振込用紙にて納入してください。

卒業後30年を経過した卒業生には終身会員制度(会費30,000円を納入し、以降の年会費を免除)があります(現時点では平成2年以前に卒業された方が対象です)。

編集長：近藤 剛啓

編集委員：古池 廣行、野田 正治、飯山 道久、荒井 眞一郎、
浦山 千明、森 清、伊藤 学、安達 功、高橋 潤子、
阿久津 好太、鈴木 敦子、三浦 博範、栢木 まどか

編集後記：(近藤 剛啓)

「新会員(新卒業生)へのメッセージ」に、OBからご多忙の中、貴重なお話をいただきました。皆様に感謝申し上げます。今後もOBの近況やご意見、大学の話題を取り上げていきます。